

# 安全データシート

## 1. 製品及び製造者情報

製品名	クール700	(消泡剤)
会社名	クール・テック株式会社	
住所	東京都狛江市東和泉2-16-30	
	TEL 03-5761-5047 FAX 03-5761-5048	
発行日	2018年 5月 7日	

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

GHS分類		分類区分	危険有害性情報	
物理化学的危険性	引火性液体	区分外		
	酸化性液体	区分外		
	金属腐食性物質	区分外		
健康に対する有害性	急性毒性	経口	区分外	
		経皮	分類できない	
		吸入:ガス	分類対象外	
		吸入:蒸気	分類できない	
		吸入:粉塵/ミスト	区分 4	吸入すると有害(蒸気、ミスト)
	皮膚腐食性/刺激性	区分 3	軽度の皮膚刺激	
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 2	眼への刺激性	
	呼吸器感作性	分類できない		
	皮膚感作性	分類できない		
	生殖細胞変異原性	区分 2	遺伝性疾患のおそれの疑い	
	発がん性	分類できない		
	生殖毒性	分類できない		
	特定標的臓器毒性	単回曝露	区分 2	臓器の障害のおそれ
		反復曝露	区分 1	長期または反復曝露による臓器の障害
吸引性呼吸器有害	分類できない			
環境に対する有害性	水生環境有害性	急性	区分外	
		慢性	分類できない	

注) 「分類できない」とは情報・データが不十分な為分類判定が出来ないもの、「区分外」とは分類基準に該当しないものです。又、上記以外のGHS分類には対象外で該当しません。

### ラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

- ・吸入すると有害(蒸気、ミスト)
- ・軽度の皮膚刺激
- ・眼への刺激性
- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・臓器の障害のおそれ
- ・長期または反復曝露による臓器の障害

---

注意書き：

- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・吸入した場合は新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと。
- ・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診断／手当を受けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。
- ・施錠して保管すること。
- ・内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って適切に廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

主成分化学名又は一般名： パラフィン系鉱物油、ポリアルキレングリコール、脂肪酸アミド

CAS番号： 非公開

官報公示整理番号： 化審法番号 記載確認済み

GHS対象危険有害成分： 鉱油（潤滑油基油）80～90%

及び濃度又は濃度範囲

---

### 4. 応急措置

- |          |  |
|----------|--|
| 吸入した場合   | ・速やかに新鮮な空気のある場所に移す。過度に上記を吸入して、不快感や呼吸困難などの障害が起ったときには、直ちに医師の手当てを受ける。 |
| 皮膚に触れた場合 | ・石鹸で付着した部分を洗浄する。   |
| 目に入った場合  | ・直ちに清浄な水で15分以上洗い流し、速やかに医師の手を受ける。飲み込んだ場合                            |
| 飲み込んだ場合  | ・無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗うこと。                     |
- 

### 5. 火災時の措置

- 消火方法・消火作業は、離れた風上から行う。移動可能な容器は、安全に行える限り、速やかに安全な場所に移す。初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂等を用い、火中に消火放水しない。大規模火災の場合は泡消化剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
- 保護具・状況に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、防護服、保護手袋、長靴、保護眼鏡等）を着用し、製品の吸入や接触を避ける。
- 消火剤・霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡消火器、乾燥砂が有効
- 

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・作業者は状況に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、防護服、保護手袋、長靴、保護眼鏡等）を着用し、製品の吸入や接触を避ける。又、作業は風上から行う。

環境に対する注意事項

- ・漏出物を直接河川などに流したり、飛散させたりしてはならない。

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法と機材

- ・付近の着火源となるものを取り除き、消火機材を準備する。
  - ・少量の場合は、おがくず、ウエス、砂等に吸収させて、密封可能な空容器に回収する。
  - ・多量の場合は盛り土等で囲って流出を防止し、密封可能な容器に出来るだけ回収する。
  - ・火花を発生しない工具を使用する。
-

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取扱 技術的対策 ・ 取り扱い時には必要に応じ適切な保護具を着用する。  
 ・ 容器を転倒、落下させたり、衝撃を加え、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
- 局所排気/全体換気 ・ 8. 暴露防止及び保護措置を参照
- 注意事項 ・ 火気および高温体の付近で取り扱わない。
- 接触回避 ・ 他薬品の混入をしない。
- 保管 技術的対策 ・ 密閉状態で保管する。
- 混触禁止物質 ・ 10. 安定性及び反応性を参照
- 保管条件 ・ 火気および高温体の付近で保管しない。

## 8. 暴露防止措置

- 管理濃度：設定されていない。
- 許容濃度：設定されていない。
- 設備対策：取り扱い中は全体換気を行ない、蒸気濃度が増大することを防止する。作業場所に、緊急時のシャワー及び洗眼の設備を設けること。
- 保護具：保護眼鏡、耐油性（ネオプレン製等）保護手袋、耐薬品性（天然ゴム、PVC 製等）保護エプロン等

## 9. 物理／化学的性質

- 外 観：淡黄乳白色液体
- 比 重：0.88 (20/20℃)
- 臭 い：鉍油臭
- 溶解度：乳化分散
- 粘 度：600 mPa・s (25℃)
- 融点/凝固点：-15℃以下
- 引火点：170℃ (COC)

## 10. 安定性／反応性

- 化学的安定性：安定
- 危険有害反応可能性：なし
- 避けるべき条件：特になし
- 混触危険物質：有用情報なし
- 危険有害な分解生成物：有用情報なし

## 11. 有害性情報

- 急性毒性：LD50(ラット、経口)=6,000mg/kg以上(推定値)
- 皮膚腐食性/刺激性：長時間の接触は皮膚刺激を与える可能性がある。眼に対する重篤な損傷/刺激性：目には刺激性あり。
- 呼吸器又は皮膚感作性：測定データなし
- 生殖細胞変異原性：測定データなし。但し、使用成分については Ames テストで陰性(外部機関確認データから推定)
- 発ガン性：測定データなし
- 生殖毒性：測定データなし
- 特定臓器(単回暴露)：潤滑油基油は特定臓器毒性物質と判定されている。
- /全身毒性(反復暴露)：潤滑油基油は特定臓器毒性物質と判定されている。
- 吸引力呼吸器有毒性：測定データなし
- その他：有用情報なし

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性(魚毒性)：LC50(ヒメダカ、48h)=1,000ppm(外部機関確認データからの推定値)
- 残留性/分解性：生分解性は良好と考えられる。
- その他：COD=61g・0/L、BOD=97g・0/L
- 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意する。

---

### 13. 廃棄上の注意

産業廃棄物であり投棄処分及び埋立処分は禁止されている。

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って廃棄する。

---

### 14. 輸送上の注意

運搬方法, 積載方法及び混載物質等は消防法の定めに従う。

容器は規制に適合するものを使用し, 必要な容器表示をする。

---

国際規則 (陸上、海上、航空)

国連分類： 該当せず      国連番号： 該当せず

特別の安全対策： 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下がないよう荷くずれ防止を確実にを行う。

国内規制： 消防法等の法令に定めるところに従う。

---

### 15. 適用法令

- ・ 消防法                         : 第 4 類第 3 石油類      危険等級Ⅲ (指定数量 2, 000 L)
  - ・ 毒物及び劇物取締法       : 該当せず
  - ・ 労働安全衛生法             : 通知対象物質 (鉍油)  
                                  表示対象物質 (法第 57 条)     該当せず  
                                  特 化 則                         該当せず  
                                  有 機 則                         該当せず
  - ・ P R T R 法                   : 該当せず
  - ・ 下水道法                     : 鉍油類排出規制
  - ・ 水質汚濁防止法
  - ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 

### 16. その他

引用文献

“G H S の挑戦” (化学工業日報社)

“労働安全衛生法・MSDS 対象物質全データ” (化学工業日報社)

“独立行政法人製品評価技術基盤機構 (N I T E) からのデータ”

“化学物質” (化学工業日報社)

“原料の製品安全データシート”

### ※お願い

製品を安全にお使い頂くため、取り扱いに当たって必要で注意すべき事項をできるだけ抜け落ちないようにまとめましたが、科学技術の進歩及び法令の改正等によって内容を変更しなければならない場合も起ります。又、危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。